朝日新聞　２０２１年２月１１日　朝刊　４ページ　東京本社

「調査中」説明拒む政府

総務省接待問題 口実ほころび

衆院予算委

総務省幹部4人が、菅義偉首相の長男ら衛星放送などを手がける東北新社から接待を受けていた問題で、総務省幹部らは、政府内の「調査」を盾に、国会で詳細な説明を拒んできた。ところが、10日の衆院予算委員会では、調査を担う人事院が「調査内容を発信することを禁止していない」と発言。答弁を拒む理由が崩れてしまった。野党はこうした政府の対応を「審議の妨害」と批判している。

政府側は、総務省幹部の接待問題が浮上して以来、予算委などで野党から追及されると、国家公務員倫理規程に反する可能性で人事院の国家公務員倫理審査会の調査が行われていることを理由に「調査中なので回答を控えたい」と繰り返し、実態の説明を拒んでいる。

この日の予算委で立憲民主党の今井雅人氏は、人事院の審査会事務局に対し、「調査をしている間は国会に報告しないよう指導しているのか」と質問した。

審査会事務局は「調査内容を対外的に発言することを禁止した規定はない。審査会から指導したこともない」と述べると、野党側から拍手が起きた。総務省幹部が詳細を説明しない「口実」が崩れたからだった。

その後の質疑では、2人の幹部が、東北新社の子会社が手がける衛星放送「スターチャンネル」の認定を同省が更新した昨年12月15日の直前に、菅氏の長男と会食をしたことを認めた。秋本芳徳・情報流通行政局長は同10日、湯本博信・情報流通行政局官房審議官は同14日だった。

今井氏は「会食で更新についての話はあったか」と追及。秋本、湯本両氏は「東北新社の事業について話題に上った記憶はない」と説明した。ただ、費用や返金などについては、この日も「調査中で控えたい」（秋本氏）とした。

その後、立憲の奥野総一郎氏の質疑では、審査会事務局が「任命権者の判断で発言を控える場合はある」とも発言した。奥野氏は「（任命権者の）総務大臣が答弁を止めているということか」と武田良太総務相に問いただした。武田氏は「審査に著しい支障が生じる場合は差し控える場合もある」とのみ述べた。

「桜」・河井元議員でも

政府与党が「調査中」は国会の場で事情を説明。100回以上もの事実に反する答弁について謝罪した。

真相究明にはほど遠く、野党は明細書や領収書など関係する資料や、安倍氏本人の国会招致を求めた。

ところが、政府与党は「安倍氏はすでにできる限りの説明をした」として野党の要求を突っぱねた。

収賄罪で在宅起訴された吉川貴盛・元農水相や、公職選挙法違反（買収）罪が確定した河井案里元参院議員の疑惑でも、政府は「捜査中」を理由に国会での追及をかわした。

さらに、捜査が進展して議員本人が辞職すると「すでに議員が辞職した」と理由を変えて、国会招致などの要求を拒んでいる。

元総務相の片山善博・早大大学院教授は「調査中だから説明できないというのは理屈になっていない。自分の身の回りが疑われれば、疑惑を持たれないように説明する人が従来は多かった。妻や友人を巡る問題が起きた安倍政権で慣れてしまい、今の政治風土が、そういうことを許している面もある。首相はきちんと説明すべきだ」と話す。

（小泉浩樹、山下龍一）

政権が説明や国会招致を拒む疑惑や問題

- 安倍晋三前首相事務所の「桜を見る会」前夜祭での会費補填問題
- 吉川貴盛元農水相の国会招致
- 河井克行元法相、案里元参院議員の国会招致

捜査中

- 安倍前首相はできる限りの説明はした
- 辞職している
- 克行氏は収監されている 案里氏は議員辞職した

菅義偉首相

政府与党が「調査中」を理由に追及を拒む問題は他にもある。

安倍晋三前首相の事務所が「桜を見る会」前日にあった夕食会の費用を補填した疑惑で、菅首相は昨年の参院予算委で「捜査中」を理由に答弁を拒んだ。

東京地検特捜部が12月に安倍氏の秘書を政治資金規正法違反（不記載）罪で略式起訴すると、安倍氏

© 朝日新聞社　無断複製転載を禁じます。
すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。